



CHAPTER 3

ファイルバックアップと管理データのエクスポートおよびインポートの管理

この章では、ファイルバックアップと管理データの管理手順を示します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「Cisco VNMC ソフトウェアのバックアップ設定への復元」 (P.3-1)
- 「ファイルのバックアップの操作」 (P.3-3)
- 「管理データのエクスポートおよびインポートの使用」 (P.3-14)

Cisco VNMC ソフトウェアのバックアップ設定への復元

バックアップ設定には、設定とそれに関連する詳細などのすべてのバックアップが含まれています。これは、バイナリ バックアップです。

Cisco VNMC ソフトウェアをバックアップ設定に復元するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco VNMC 仮想マシン (VM) をインストールします。

詳細については、『Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(1)』および『Cisco Virtual Network Management Center, Release 2.0 Installation Guide』を参照してください。



(注) 既存の VNMC ソフトウェアを復元する場合、手順 1 の実行は任意です。

ステップ 2 Cisco VSG ポリシー エージェントをアンインストールします。

このタスク用の Cisco VSG コンソールにセキュア シェルを接続します。このステップではトラフィックが中断されることはありません。

```
vsg# conf t
vsg (config)# vnm-policy-agent
vsg (config-vnm-policy-agent)# no policy-agent-image
```



(注) 復元する Cisco VNMC に関連付けたすべての Cisco VSG で、この手順を実行します。

ステップ 3 ASA 1000V ポリシー エージェントをディセーブルにします。

このタスク用の ASA 1000V コンソールにセキュア シェルを接続します。

```
ciscoasa> enable
Password:
```

Cisco VNMC ソフトウェアのバックアップ設定への復元

```
ciscoasa# configure terminal
ciscoasa(config)# no vnmc policy-agent
```



(注) 復元する Cisco VNMC に関連付けたすべての ASA 1000V で、この手順を実行します。

ステップ 4 VSM ポリシー エージェントをアンインストールします。

このタスク用の VSM コンソールにセキュア シェルを接続します。このステップではトラフィックが中断されることはありません。

```
vsm# conf t
vsm (config)# vnm-policy-agent
vsm (config-vnm-policy-agent)# no policy-agent-image
```



(注) 復元する Cisco VNMC に関連するすべての Cisco VSM に対して次の手順を実行します。

ステップ 5 Cisco VNMC データベースを復元します。

このタスク用の Cisco VNMC CLI にセキュア シェルを接続します。Cisco VNMC バックアップの場所に応じて、ファイル転送プロトコル (FTP)、セキュア コピー (SCP)、またはセキュア ファイル転送プロトコル (SFTP) を使用して復元します。

```
vnmc# connect local-mgmt
vnmc(local-mgmt)# restore scp://username@server/pathtofile
```



(注) TFTP を使用してバックアップおよび復元の操作を実行しないでください。

ステップ 6 Cisco VNMC GUI で、[Administration] > [Service Registry] > [Clients] を選択し、[Work] ペインで次の手順に進みます。

- a. 登録された各 VSM で、動作ステータスに lost-visibility と表示されるまで待ちます。
- b. 各 VSM を選択し、[Delete Client] アイコンをクリックします。

ステップ 7 Cisco VNMC GUI で [Resource Management] > [Resources] > [Virtual Supervisor Modules] を選択し、削除した VSM が表示されていないことを確認します。

ステップ 8 VSM ポリシー エージェントを再インストールします。



(注) VSM ポリシー エージェントをアップグレードする必要がある場合は、新しいソフトウェアをインストールしてください。

```
VSM# conf t
VSM (config)# vnm-policy-agent
VSM (config-vnm-policy-agent)# policy-agent-image bootflash:vnmc-vsmpa.2.0.1g.bin
```

ステップ 9 すべての VSM がサービス レジストリに登録され、[Resource Management] > [Resources] > [Virtual Supervisor Modules] に表示されるまで待ちます。

ステップ 10 Cisco VSG ポリシー エージェントを再インストールします。



(注) Cisco VSG ポリシー エージェントをアップグレードする必要がある場合は、ここで新しいソフトウェアをインストールします。

```
VSG# conf t
VSG (config)# vnm-policy-agent
VSG (config-vnm-policy-agent)# policy-agent-image bootflash:vnmc-vsgpa.1.3.1c.bin
```

ステップ 11 ASA 1000V ポリシー エージェントをイネーブルにします。

```
ciscoasa> enable
Password:
ciscoasa# configure terminal
ciscoasa(config)# vnmc policy-agent
ciscoasa(config-vnmc-policy-agent)# registration host n.n.n.n
ciscoasa(config-vnmc-policy-agent)# shared-secret MySharedSecret
```

ステップ 12 復元プロセスの完了後、次のステータスを確認します。



(注) セットアップ環境により、復元プロセスに数分を要する場合があります。

- a. Cisco VSG CLI で、設定が以前の状態に復元されていることを確認します。
- b. Cisco ASA 1000V で、設定が以前の状態に復元されていることを確認します。
- c. Cisco VNMC GUI で、オブジェクトおよびポリシーが以前の状態に復元されていることを確認します。

ファイルのバックアップの操作

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ファイルのバックアップの作成」(P.3-3)
- 「ファイルバックアップの削除」(P.3-4)
- 「ファイルバックアップの表示」(P.3-5)
- 「ファイルバックアップのイネーブル化」(P.3-6)
- 「ファイルバックアップのディセーブル化」(P.3-7)
- 「ファイルバックアップの属性の使用」(P.3-8)

ファイルのバックアップの作成

ファイルのバックアップを作成できます。



(注) TFTP を使用してデータをバックアップしないでください。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「VNMC CLI の基本コマンド」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

■ ファイルのバックアップの操作

手順の概要

1. **scope system**
2. **create backup** {ftp:</user@location/file> | scp:</user@location/file> |
sftp:</user@location/file>} full-state {disabled | enabled}
3. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	create backup Example: vnmcli /system # create backup ftp://de@testhostname/testfile full-state enabled	ファイル バックアップを作成します。
ステップ3	commit-buffer Example: vnmcli /system/backup* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、ファイル バックアップを作成する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # create backup ftp://de@testhostname/testfile full-state enabled

Password:
vnmcli /system/backup* # commit-buffer
vnmcli /system/backup #
```

ファイル バックアップの削除

ファイルのバックアップを削除できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **delete backup** <hostname or ip-address>

3. commit-buffer

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	delete backup Example: vnmcli /system # delete backup testhostname	ファイル バックアップを削除します。
ステップ3	commit-buffer Example: vnmcli /system* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、ファイル バックアップを削除する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # delete backup testhostname
vnmcli /system* # commit-buffer
vnmcli /system #
```

ファイル バックアップの表示

ファイル バックアップのリストを表示できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **show backup**

■ ファイルのバックアップの操作

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	show backup Example: vnmcli /system # show backup	ファイル バックアップのリストを表示します。

例

次に、ファイルバックアップのリストを表示する例を示します。

```
vnmcli # scope system
vnmcli /system # show backup

Backup:
  Hostname      Type      User      Protocol  Administrative State  Description
  -----
  testhostname  Full State testOne   Ftp       Enabled
  testhostname2 Full State testTwo   Ftp       Enabled
vnmcli /system #
```

ファイルバックアップのイネーブル化

ファイルのバックアップをイネーブルにできます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope backup** <hostname or ip-address>
3. **enable**
4. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope backup Example: vnmcli /system # scope backup testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	enable Example: vnmcli /system/backup # enable	バックアップをイネーブルにします。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/backup* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、ファイル バックアップをイネーブルにする例を示します。

```
vnmcli # scope system
vnmcli /system # scope backup testhostname
vnmcli /system/backup # enable

Password:
vnmcli /system/backup* # commit-buffer
vnmcli /system/backup #
```

ファイル バックアップのディセーブル化

ファイルのバックアップをディセーブルにできます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope backup** <hostname or ip-address>
3. **disable**
4. **commit-buffer**

■ ファイルのバックアップの操作

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope backup Example: vnmcli /system # scope backup testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	disable Example: vnmcli /system/backup # disable	バックアップをディセーブルにします。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/backup* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、ファイルバックアップをディセーブルにする例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope backup testhostname
vnmcli /system/backup # disable

Password:
vnmcli /system/backup* # commit-buffer
vnmcli /system/backup #
```

ファイルバックアップの属性の使用

ここでは、次の内容について説明します。

- ・「[ファイルバックアップの説明属性の設定](#)」(P.3-8)
- ・「[ファイルバックアップに対するパスワード属性の設定](#)」(P.3-9)
- ・「[ファイルバックアップに対するプロトコル属性の設定](#)」(P.3-10)
- ・「[ファイルバックアップのリモートファイル属性の設定](#)」(P.3-11)
- ・「[ファイルバックアップに対するタイプ属性の設定](#)」(P.3-12)
- ・「[ファイルバックアップに対するユーザ属性の設定](#)」(P.3-13)

ファイルバックアップの説明属性の設定

説明属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `scope backup <hostname or ip-address>`
3. `set descr <description>`
4. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>scope backup</code> Example: vnm /system # scope backup testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	<code>set descr</code> Example: vnm /system/backup # set descr testAll	説明属性を設定します。
ステップ4	<code>commit-buffer</code> Example: vnm /system/backup* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、説明属性を設定する例を示します。

```
vnm# scope system
vnm /system # scope backup testhostname
vnm /system/backup # set descr testAll
vnm /system/backup* # commit-buffer
vnm /system/backup #
```

ファイルバックアップに対するパスワード属性の設定

パスワード属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

■ ファイルのバックアップの操作

手順の概要

1. `scope system`
2. `scope backup <hostname or ip-address>`
3. `set password`
4. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnm# <code>scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>scope backup</code> Example: vnm /system # <code>scope backup</code> testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	<code>set password</code> Example: vnm /system/backup # <code>set password</code>	パスワード属性を設定します。
ステップ4	<code>commit-buffer</code> Example: vnm /system/backup* # <code>commit-buffer</code>	設定をコミット（保存）します。

例

次に、パスワード属性を設定する例を示します。

```
vnm# scope system
vnm /system # scope backup testhostname
vnm /system/backup # set password

Password:
vnm /system/backup* # commit-buffer
vnm /system/backup #
```

ファイルバックアップに対するプロトコル属性の設定

リモート ファイル名を設定できます。



(注) TFTP を使用してデータをバックアップしないでください。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `scope backup <hostname or ip-address>`
3. `set protocol {ftp | scp | sftp}`
4. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnm# <code>scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>scope backup</code> Example: vnm /system # <code>scope backup</code> testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	<code>set protocol</code> Example: vnm /system/backup # <code>set protocol scp</code>	プロトコル属性を設定します。
ステップ4	<code>commit-buffer</code> Example: vnm /system/backup* # <code>commit-buffer</code>	設定をコミット（保存）します。

例

次に、プロトコル属性を設定する例を示します。

```
vnm# scope system
vnm /system # scope backup testhostname
vnm /system/backup # set protocol scp
vnm /system/backup* # commit-buffer
vnm /system/backup #
```

ファイルバックアップのリモート ファイル属性の設定

リモート ファイル属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

■ ファイルのバックアップの操作

手順の概要

1. `scope system`
2. `scope backup <hostname or ip-address>`
3. `set remote-file <remote file full path>`
4. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnmcli# <code>scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>scope backup</code> Example: vnmcli /system # <code>scope backup</code> testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	<code>set remote-file</code> Example: vnmcli /system/backup # <code>set remote-file</code> /directory/file_a	リモート ファイル属性を設定します。
ステップ4	<code>commit-buffer</code> Example: vnmcli /system/backup* # <code>commit-buffer</code>	設定をコミット (保存) します。

例

次に、リモート ファイル属性を設定する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope backup testhostname
vnmcli /system/backup # set remote-file /directory/file_a
vnmcli /system/backup* # commit-buffer
vnmcli /system/backup #
```

ファイルバックアップに対するタイプ属性の設定

タイプ属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `scope backup <hostname or ip-address>`
3. `set type {full-state}`
4. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnmcli# <code>scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>scope backup</code> Example: vnmcli /system # <code>scope backup</code> testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	<code>set type</code> Example: vnmcli /system/backup # <code>set type</code> full-state	タイプ属性を設定します。
ステップ4	<code>commit-buffer</code> Example: vnmcli /system/backup* # <code>commit-buffer</code>	設定をコミット（保存）します。

例

次に、タイプ属性を設定する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope backup testhostname
vnmcli /system/backup # set type full-state
vnmcli /system/backup* # commit-buffer
vnmcli /system/backup #
```

ファイルバックアップに対するユーザ属性の設定

ユーザ属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope backup** <hostname or ip-address>
3. **set user** <user-name>
4. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope backup Example: vnm /system # scope backup testhostname	バックアップ モードを開始します。
ステップ3	set user Example: vnm /system/backup # set user techs	ユーザ属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnm /system/backup* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、ユーザ属性を設定する例を示します。

```
vnm# scope system
vnm /system # scope backup testhostname
vnm /system/backup # set user techs
vnm /system/backup* # commit-buffer
vnm /system/backup #
```

管理データのエクスポートおよびインポートの使用

データ エクスポートには設定だけが含まれます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「管理データのエクスポート サービスの作成」 (P.3-15)
- 「管理データのエクスポート サービスの削除」 (P.3-16)
- 「管理データのエクスポート サービスの表示」 (P.3-17)
- 「管理データのエクスポート サービスのイネーブル化」 (P.3-17)
- 「管理データのエクスポート サービスのディセーブル化」 (P.3-18)
- 「管理データのインポート サービスの作成」 (P.3-19)

- 「管理データのインポート サービスの削除」 (P.3-20)
- 「管理データのインポート サービスの表示」 (P.3-21)
- 「管理データのインポート サービスのイネーブル化」 (P.3-22)
- 「管理データの属性の使用」 (P.3-24)

管理データのエクスポート サービスの作成

VNMC 管理データのエクスポート サービスを作成できます。



(注) TFTP を使用してエクスポートおよびインポートの操作を実行しないでください。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「VNMC CLI の基本コマンド」 (P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `create export {ftp:<user@location/file> | scp:<user@location/file> | sftp:<user@location/file>} {config-all | config-logical | config-system} {disabled | enabled}`
3. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: <code>vnmc# scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>create export</code> Example: <code>vnmc /system # create export ftp://de@testhostname/PA12 config-all enabled</code>	管理データのエクスポート サービスをイネーブルにします。
ステップ3	<code>commit-buffer</code> Example: <code>vnmc /system/export* # commit-buffer</code>	設定をコミット (保存) します。

例

次に、管理データのエクスポート サービスを作成する例を示します。

```
vnmc# scope system
```

```

vnmcli /system # create export ftp://de@testhostname/PA12 config-all enabled

Password:
vnmcli /system/export* # commit-buffer
vnmcli /system/export #

```

管理データのエクスポート サービスの削除

管理データのエクスポート サービスを削除できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `delete export <hostname or ip-address>`
3. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnmcli# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>delete export</code> Example: vnmcli /system # delete export testhostname	エクスポート サービスを削除します。
ステップ3	<code>commit-buffer</code> Example: vnmcli /system* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、管理データのエクスポート サービスを削除する例を示します。

```

vnmcli# scope system
vnmcli /system # delete export testhostname
vnmcli /system* # commit-buffer
vnmcli /system #

```


管理データのエクスポート サービスの表示

エクスポート サービスのリストを表示できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `show export`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: <code>vnmc# scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>show export</code> Example: <code>vnmc /system # show export</code>	エクスポート サービスのリストを表示します。

例

次に、エクスポート サービスのリストを表示する例を示します。

```
vnmc# scope system
vnmc /system # show export
```

Management Data Export:

```

-----
Hostname      User      Protocol Data Export Type Administrative State Description
-----
testhostname  test     Ftp      Config All      Enabled
testhostname2 test     Ftp      Config System   Enabled
vnmc /system #
```

管理データのエクスポート サービスのイネーブル化

管理データのエクスポート サービスをイネーブルにできます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope export** *<hostname or ip-address>*
3. **enable**
4. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope export Example: vnm /system # scope export testhostname	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	enable Example: vnm /system/export # enable	管理データのエクスポート サービスをイネーブルにします。
ステップ4	commit-buffer Example: vnm /system/export* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、管理データのエクスポート サービスをイネーブルにする例を示します。

```
vnm# scope system
vnm /system # scope export testhostname
vnm /system/export # enable

Password:
vnm /system/export* # commit-buffer
vnm /system/export #
```

管理データのエクスポート サービスのディセーブル化

管理データのエクスポート サービスをディセーブルにできます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope export** <hostname or ip-address>
3. **disable**
4. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope export Example: vnmcli /system # scope export testhostname	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	disable Example: vnmcli /system/export # disable	管理データのエクスポート サービスをディセーブルにします。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/export* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、管理データのエクスポート サービスをイネーブルにする例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope export testhostname
vnmcli /system/export # disable

Password:
vnmcli /system/export* # commit-buffer
vnmcli /system/export #
```

管理データのインポート サービスの作成

VNMC 管理データのインポート サービスを作成できます。



(注) TFTP を使用してエクスポートおよびインポートの操作を実行しないでください。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「VNMC CLI の基本コマンド」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **create import {ftp:<user@location/file> | scp:<user@location/file> | sftp:<user@location/file>} {merge} {disabled | enabled}**
3. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	create import Example: vnm /system # create import ftp://de@testhostname/PA12 merge enabled	管理データのインポート サービスをイネーブルにします。
ステップ3	commit-buffer Example: vnm /system/import* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、管理データのインポート サービスを作成する例を示します。

```
vnm# scope system
vnm /system # create import ftp://de@testhostname/PA12 merge enabled

Password:
vnm /system/import* # commit-buffer
vnm /system/import #
```

管理データのインポート サービスの削除

管理データのインポート サービスを削除できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「VNMC CLI の基本コマンド」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `delete import <hostname or ip-address>`
3. `commit-buffer`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnmcli# <code>scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>delete import</code> Example: vnmcli /system # <code>delete import testhostname</code>	インポート サービスを削除します。
ステップ3	<code>commit-buffer</code> Example: vnmcli /system* # <code>commit-buffer</code>	設定をコミット（保存）します。

例

次に、インポート サービスを削除する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # delete import testhostname
vnmcli /system* # commit-buffer
vnmcli /system #
```

管理データのインポート サービスの表示

インポート サービスのリストを表示できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `show import`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	show import Example: vnmcli /system # show import	インポート サービスのリストを表示します。

例

次に、インポート サービスのリストを表示する例を示します。

```
vnmcli # scope system
vnmcli /system # show import

Management Data Import:
  Hostname      User   Protocol  Data Import Action  Administrative State Description
  -----
  testhostname  test   Ftp       Replace  Enabled
  testhostname2 test   Ftp       Replace  Enabled
vnmcli /system #
```

管理データのインポート サービスのイネーブル化

管理データのインポート サービスをイネーブルにできます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope import** *<hostname or ip-address>*
3. **enable**
4. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnmcli /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	enable Example: vnmcli /system/import # enable	管理データのインポート サービスをイネーブルにします。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/import* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、管理データのインポート サービスをイネーブルにする例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope import testhostname
vnmcli /system/import # enable

Password:
vnmcli /system/import* # commit-buffer
vnmcli /system/import #
```

管理データのインポート サービスのディセーブル化

管理データのインポート サービスをディセーブルにできます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope import <hostname or ip-address>**
3. **disable**
4. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnmcli /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	disable Example: vnmcli /system/import # disable	管理データのインポート サービスをディセーブルにします。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/import* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、管理データのインポート サービスをディセーブルにする例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope import testhostname
vnmcli /system/import # disable

Password:
vnmcli /system/import* # commit-buffer
vnmcli /system/import #
```

管理データの属性の使用

ここでは、次の内容について説明します。

- 「インポートに対するアクション属性の設定」 (P.3-24)
- 「エクスポートおよびインポートに対する説明属性の設定」 (P.3-25)
- 「エクスポートおよびインポートに対するパスワード属性の設定」 (P.3-27)
- 「エクスポートおよびインポートに対するプロトコル属性の設定」 (P.3-28)
- 「エクスポートおよびインポートに対するリモート ファイル プレフィックス属性の設定」 (P.3-30)
- 「エクスポートのタイプ属性の設定」 (P.3-31)
- 「エクスポートおよびインポートに対するユーザ属性の設定」 (P.3-32)

インポートに対するアクション属性の設定

アクション属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「VNMC CLI の基本コマンド」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope import** <hostname or ip-address>
3. **set action** {merge}
4. **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnmcli /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	set action Example: vnmcli /system/import # set action merge	アクション属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/import* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、アクション属性を設定する例を示します。

```
vnmcli # scope system
vnmcli /system # scope import testhostname
vnmcli /system/import # set action merge
vnmcli /system/import* # commit-buffer
vnmcli /system/import #
```

エクスポートおよびインポートに対する説明属性の設定

説明属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「VNMC CLI の基本コマンド」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope export** <hostname or ip-address> | **scope import** <hostname or ip-address>
3. **set descr** <description>
4. **commit- buffer**

手順の詳細（エクスポート モード）

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope export Example: vnm /system # scope export testhostname	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	set descr Example: vnm /system/export # set descr testA	説明属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnm /system/export* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

手順の詳細（インポート モード）

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnm /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	set descr Example: vnm /system/import # set descr testA	説明属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnm /system/import* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、エクスポート モードで説明属性を設定する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope export testhostname
vnmcli /system/backup # set descr testA
vnmcli /system/backup* # commit-buffer
vnmcli /system/backup* #
```

エクスポートおよびインポートに対するパスワード属性の設定

パスワード属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `scope export <hostname or ip-address> | scope import <hostname or ip-address>`
3. `set password`
4. `commit-buffer`

手順の詳細 (エクスポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: vnmcli# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>scope export</code> Example: vnmcli /system # scope export testhostname	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	<code>set password</code> Example: vnmcli /system/export # set password	パスワード属性を設定します。
ステップ4	<code>commit-buffer</code> Example: vnmcli /system/export* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

手順の詳細 (インポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnmcli /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	set password Example: vnmcli /system/import # set password	パスワード属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/import* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、インポート モードでパスワード属性を設定する例を示します。

```
vnmcli # scope system
vnmcli /system # scope import testhostname
vnmcli /system/import # set password
```

```
Password:
vnmcli /system/import #
```

エクスポートおよびインポートに対するプロトコル属性の設定

プロトコル属性を設定できます。



(注) TFTP を使用してエクスポートおよびインポートの操作を実行しないでください。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope export** <hostname or ip-address> | **scope import** <hostname or ip-address>
3. **set protocol** {ftp | scp | sftp}
4. **commit-buffer**

手順の詳細 (エクスポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope export Example: vnm /system # scope export testhostname	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	set protocol Example: vnm /system/export # set protocol ftp	パスワード属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnm /system/export* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

手順の詳細 (インポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnm# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnm /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	set protocol Example: vnm /system/import # set protocol ftp	プロトコル属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnm /system/import* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、インポート モードでプロトコル属性を設定する例を示します。

```
vnm# scope system
vnm /system # scope import testhostname
vnm /system/import # set protocol ftp
vnm /system/import* # commit-buffer
vnm /system/import #
```

エクスポートおよびインポートに対するリモート ファイル プレフィックス属性の設定

リモート ファイルのプレフィックス属性を、そのリモート ファイルのプレフィックス (`/pathofile/file`) またはフルパス (`/pathofile/file.tgz`) に設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. `scope system`
2. `scope export <hostname or ip-address> | scope import <hostname or ip-address>`
3. `set remote-file-prefix </path/filename> | </path/filename.tgz>`
4. `commit-buffer`

手順の詳細 (エクスポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	<code>scope system</code> Example: <code>vnmc# scope system</code>	システム モードを開始します。
ステップ2	<code>scope export</code> Example: <code>vnmc /system # scope export testhostname</code>	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	<code>set remote-file-prefix</code> Example: <code>vnmc /system/export # set remote-file-prefix /test</code>	リモート ファイル プレフィックス属性を設定します。
ステップ4	<code>commit-buffer</code> Example: <code>vnmc /system/export* # commit-buffer</code>	設定をコミット (保存) します。

手順の詳細（インポート モード）

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnmcli /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	set remote-file-prefix Example: vnmcli /system/import # set remote-file-prefix /test	リモート ファイル プレフィックス属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/import* # commit-buffer	設定をコミット（保存）します。

例

次に、エクスポート モードでリモート ファイル プレフィックス属性を設定する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope export testhostname
vnmcli /system/export # set remote-file-prefix /test
vnmcli /system/export* # commit-buffer
vnmcli /system/export #
```

エクスポートのタイプ属性の設定

タイプ属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope export** <hostname or ip-address>
3. **set type** <hostname or ip-address> {config-all | config-logical | config-system}
4. **commit-buffer**

手順の詳細 (エクスポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli # scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope export Example: vnmcli /system # scope export testhostname	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	set type Example: vnmcli /system/export # set type config-all	タイプ属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/export* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、エクスポート モードでタイプ属性を設定する例を示します。

```
vnmcli # scope system
vnmcli /system # scope export testhostname
vnmcli /system/export # set type config-all
vnmcli /system/export* # commit-buffer
vnmcli /system/export #
```

エクスポートおよびインポートに対するユーザ属性の設定

ユーザ属性を設定できます。

はじめる前に

VNMC CLI の基本情報については、「[VNMC CLI の基本コマンド](#)」(P.1-8) を参照してください。

CLI

管理コントローラ

手順の概要

1. **scope system**
2. **scope export** <hostname or ip-address> | **scope import** <hostname or ip-address>
3. **set user** <user-name>
4. **commit-buffer**

手順の詳細 (エクスポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope export Example: vnmcli /system # scope export testhostname	エクスポート モードを開始します。
ステップ3	set user Example: vnmcli /system/export # set user techs	ユーザ属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/export* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

手順の詳細 (インポート モード)

	コマンド	目的
ステップ1	scope system Example: vnmcli# scope system	システム モードを開始します。
ステップ2	scope import Example: vnmcli /system # scope import testhostname	インポート モードを開始します。
ステップ3	set user Example: vnmcli /system/import # set user techs	ユーザ属性を設定します。
ステップ4	commit-buffer Example: vnmcli /system/import* # commit-buffer	設定をコミット (保存) します。

例

次に、インポート モードでユーザ属性を設定する例を示します。

```
vnmcli# scope system
vnmcli /system # scope import testhostname
vnmcli /system/import # set user techs
vnmcli /system/import* # commit-buffer
vnmcli /system/import #
```

